

The annual bulletin of the association Yuhi

有斐会報

創立125周年記念号

2012-no.54

平成24年3月1日

- 発行所・有斐会事務局：高山市三福寺町
岐阜県立斐太高等学校内 0577-32-1693
- 編集人・三嶋 昌
- 印刷所・高山印刷株式会社 高山市本町3-7



目次

-
- 2 ごあいさつ
上木 靖司 有斐会長 大屋 進 校長
 - 3 有斐会だより
 - 12 名物先生の近況「恩師は今…」
 - 13 【和氣満堂】
 - 14 FACE & VOICE
 - 16 投 稿
 - 19 平成23年度 有斐会学年代表会・総会報告
 - 20 創立126周年記念総会・懇親会のご案内
 - 21 平成23年度 部活動結果(活動)報告
 - 22 進路状況について
 - 23 事務局だより・編集後記
 - 24 卒業アルバム 学校の歴史から

特別寄稿

このページは同窓の皆さんの寄稿をもとに和氣藪々と交流を深められる広場となる事を願っております。

「和氣滿堂」 昭和31年秋、時の法相であった牧野良三先生が本校に寄贈された篇額である。意味は「なごやかな気分が堂に満ちていること」で斐高有斐会のぞましい姿への期待がこめられている。

和氣
滿堂

法相 牧野良三書

飛騨の文化・科学・産業への思い

西尾 章治郎(高22回)

飛騨文化の優位性

昨年は、「坂の上の雲」がNHKでテレビ放映され、司馬遼太郎の知名度・人気がさらに高まりました。私が大阪大学理事・副学長在職中の平成十九年十月一日に、大阪外国语大學との統合が実現しました。司馬遼太郎は、大阪外国语大学の前身である大阪外国语学校蒙古語部の出身ということもあり、私にとつても特に親近感を覚える作家です。司馬遼太郎のシリーズ

本「街道をゆく」は一般的にもよく知られていますが、そのなかに「飛騨紀行」があります。この作品は、司馬氏の一九七二年十一月における飛騨地区への取材旅行をもとに書かれています。当時私は、京都大学の学生でしたが、帰省した折の飛騨地方のことが彷彿として懐かしく蘇ってきます。

司馬遼太郎は、「飛騨紀行」の最後を「たれか、金

森数代と幕領時代がのこを、單なる文献主義をこえる感受性をもつて研究してくれる天才的な人が出てくれないものだろうか。明治期の松江を小泉

科学の革新が飛騨の地で進行中

飛騨の山懐、神岡鉱山の茂住坑の跡地に建設された大規模施設「カミオカンデ」、さらにそれを改良した超巨大施設群が、物

理学の革新を促す成果を生み出し、從来理論の見直しを迫っています。「カ

ミオカ」は物理学における新領域の発祥の地とまで言われています。こ

の卓越した成果により、

二〇〇二年のノーベル物理学賞が小柴昌俊博士に授与され、國民をワクワクさせることは記憶に新しいところです。

科学に関するこのよう

私は、京都大学、大阪大学において三十年以上にわたって情報科学に関する研究に携わってきました。

最近の中国・韓国企業の攻勢で、ハードウエアの差異化では優位を保てる期間はますます短くなつ

ており、ソフトウエアこそが日本の産業振興の鍵を握ております。

最近、首都圏から徳島県の山間地区へソフトウエア産業、特にベンチャーアイテムが開拓されています。

本稿では、飛騨について、文化・科学に関する

素晴らしいことを、さらに産業に関しては今後の可能性を記してみました。こ

れらが、本紙読者の飛騨

を見ることになります。その要因には、德島県内に超高速のネットワーク網が整備されており、首都圏と同じ、あるいはより優れたソフトウエア開発環境が提供されています。

そのような状況の中で、超高速のネットワーク環境を整備するという投資は求められるにしても、飛騨地方がソフトウエア開発の一大拠点になり得る可能性は十分あります。

「飛騨の匠」は、類い稀なる技をもつて、与えられた土地空間に巧妙な構造物を作り上げました。そのように洗練された作品を作り上げる気風を受け継ぐ飛騨という土地環境は、コンピュータ内の無限の電子空間に、非常に巧みで美意識を感じる程整然としたソフトウエア構造物を作り上げるにも非常に適していると考えます。

おわりに

著者紹介

西尾章治郎(高22回)
姓室、国府町出身の略歴等は次の通りです。

昭和五十年京都大学工学部卒業。昭和五十五年同大

学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。京都大

学工学部助手等を経て、平

成四年大阪大学工学部教授

となり、現在、大阪大学大

学院情報科学研究科教授。

文部科学省科学官、大阪大

学理事・副学長などを歴任。

データベース、マルチメディア

システムの研究に従事。

著作には岩波講座「マルチ

メディア情報学」全12巻(共編

著)、「インターネット」全6

巻(共編著)、および多数の学

術論文がある。電子情報通

信学会業績賞、日本データ

ベース学会功労賞、情報処

理学会功績賞など受賞多数。

また、平成二十三年十一月に紫綬褒章を受章。本校

では昭和五十七年に創立記念講演を行われました。

